

# 博物館だより



No.76

平成24年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13

▲百手祭り(平成4年・犀川帆柱)

● 観覧料  
場 所 期

● 会期  
常設展示室  
9月2日(日)まで  
常設展の観覧料でご覧  
いただけます。

実施しています。7回目の開催となる今回のテーマは、「京築の祭り」。ぜひご来館下さい。

現在、当館では故・向井澄男さんの写真展を開催しています。向井澄男さんは、長年にわたり京築地方の自然や風物を撮り続けた写真家です。平成15年に74歳で亡くなられましたが、平成18年にご遺族より数万点に及ぶ遺作が当館に寄贈されました。以後、毎年一回「不動」の共通タイトルをつけ、向井さんの写真展を

## 不動VII

「向井澄男写真展」



▲円座もちつき(昭和63年・犀川木井馬場)

## 文化ボランティア を募集します

博物館では、文化ボランティアとして活動していただける方を募集しています。

文化ボランティアは、博物館・文

化・文化財関連の事業やイベントの「サポーター」「パートナー」として活動していただくもので、史跡ガイド、小中学校ゲストティーチャー、文化イベントへの協力、博物館資料調査など、「出来る」ことを出来ることだけ」お手伝いいただくものです。それぞれの希望に応じた活動を、無理のない範囲で行つていただきたい。登録方法、登録期間、活動内容などの詳細につきましては、個別にご説明致しますので、当館(Tel 33-4666)までお問い合わせください。

みやこ町古墳フォーラム(11/24開催)記念

## わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール

### 作品募集

### ～描いてみよう！みんなの町の「過去・現在・未来」～

◎絵のテーマ つぎのテーマのいずれか一つを選んでください。応募できる作品数は1人につき1点です。

**「わたしの町の過去」部門** あなたの町にある文化財(お寺や神社の建物、古墳、お祭り、古い道具、大きな木など)を描いてください。「古いもの」なら内容は自由です。

**「わたしの町の現在」部門** あなたの町の美しい風景や、好きな場所の様子を描いてください。

**「わたしの町の未来」部門** あなたの町が、ずっと未来にどのような町になっているか、または、どのような町になってほしいか、空想して描いてください。

◎画用紙のサイズ 四つ切りの画用紙を使用してください。使用する画材は自由ですが油絵は応募できません。

◎応募資格 京築地区(京都郡・行橋市・築上郡・豊前市)に住んでいるか、または通学している小・中・高校生

◎応募方法 応募票(募集パンフレットをご覧ください)に必要事項を記入し、画用紙の裏面に貼り付けて、下記の応募先に郵送または持参してください。作品の応募は、学校単位、個人単位、どちらでも受け付けます。

◎応募締切 平成24年9月28日(必着)

◎応募先・問い合わせ先 みやこ町歴史民俗博物館「絵画コンクール」担当 Tel 0930-33-4666

◎賞 グランプリ1点(優秀賞の中から選考)・優秀賞6点・佳作15点以内

◎表彰式 平成24年11月24日(土)、みやこ町立豊津公民館にて開催する「みやこ町古墳フォーラム」で表彰。

詳しくは、「みやこ町デジタル・ミュージアム」(<http://www.miyako-museum.jp>)に掲示の募集パンフレットをご覧ください。

# 黒田藏ケ本遺跡

博物館だより No.76  
黒田久保田遺跡と同じく、今年3月に発行しました『みやこの町内遺跡群VI』に掲載されている遺跡です。

この遺跡は、黒田久保田遺跡のあつた觀音山から南東方向に伸びる丘陵から谷をはさんだ南北側丘陵の南向き斜面にあります。この丘陵も觀音山から南東方方向に伸びており、山裾部分が狭く先端部が広がった変わった形をしています。

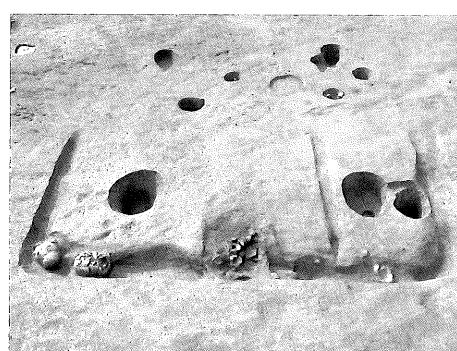
この丘陵の上では山裾にかけて68基が確認されている「三ツ塚古墳群」が広がっています。遺跡の範囲の内、ほ場整備により削られる部分だけを対象にしたため、4地点を発掘調査しました。今回は丘陵の先端に近い東から南西へ順にI・II・III区をご紹介します。

**I区の調査**  
この調査区は丘陵上の平坦部分縁から裾部の標高16・5m

19m前後にあたります。調査区の北側が水田になつていて平坦ですが、全体に南側に向かつて低くなる斜面にあたります。調査区の中央付近にはほぼ南北方向に水が流れた跡（流路）があります。流路は黒褐色の土で埋まつていましたが、北側の平坦部分ではこの土に穴が掘られており、斜面では3軒の堅穴住居と3軒の掘立柱建物が見つかっています。斜面では3軒の堅穴住居と



▲黒田藏ケ本遺跡I区全景



▲黒田藏ケ本遺跡I区の堅穴住居



▲黒田藏ケ本遺跡II区全景



▲黒田藏ケ本遺跡III区全景

て四角形）ですが谷側部分は削られて無くなっています。3軒のうち2軒は重なり合っていますが、全て山側にカマドが作られた住居でした。出土した土器は少量ですが、3号住居では周壁溝（壁際に掘られた溝）の中からほぼ完全な形に復原で

されました。出土した土器は少しが、3号住居では周壁溝（壁際に掘られた溝）の中からほぼ完全な形に復原で

**II区の調査**  
この調査区は第1区の西側に接する山裾部分にあたります。

**III区の調査**  
この調査区が最も西南側とな

ります。住居2軒と溝などを検出した住居は北側の1辺しか平坦になっています。調査区の南東隅に堅穴住居1軒、掘立柱建物1棟、土坑などが見つかりました。住居は床面まで削られましたが、周壁溝から方形きる土師器の甕が2個出土しました。これらの土器から見て、古墳時代の終わり頃の集落があつたと思われます。

また、掘立柱建物は総柱と呼ばれるもので、高床式倉庫の可能性があります。建物は住居よりも建物があつたのかもしれません。住居や建物からは土器は出土していませんが、建物近くの土坑からはI区とほぼ同じ時期の土器が出土しています。

ご紹介した『みやこの町内遺跡群VI』は町内の各図書館にあります。興味がある方は是非ご覧ください。